



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月11日

上場会社名 株式会社カンセキ 上場取引所 東
 コード番号 9903 URL <https://www.kanseki.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大田垣 一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 三橋 昭人 (TEL) 028-659-3112
 四半期報告書提出予定日 2022年1月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績(2021年3月1日~2021年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	30,039	△3.0	1,787	△27.3	1,763	△25.6	1,249	△14.9
2021年2月期第3四半期	30,957	15.2	2,458	81.5	2,371	86.9	1,467	84.8

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 1,620百万円(△16.4%) 2021年2月期第3四半期 1,938百万円(82.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	179.76	177.74
2021年2月期第3四半期	211.04	208.35

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	30,473	11,321	37.1
2021年2月期	28,857	9,903	34.1

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 11,291百万円 2021年2月期 9,826百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	10.00	—	12.00	22.00
2022年2月期	—	12.00	—		
2022年2月期(予想)				12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日~2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,500	4.6	3,160	0.2	3,050	4.8	1,880	4.7	271.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Q	8,050,000株	2021年2月期	8,050,000株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	1,100,379株	2021年2月期	1,114,251株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Q	6,949,531株	2021年2月期3Q	6,955,289株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年3月1日から2021年11月30日まで)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大がワクチン接種の普及もあって一定の収まりを見せ、10月に緊急事態宣言が解除されたものの、時を経ずして新たな変異ウイルスが発見されるなど、引き続き先行き不透明な状況となっております。

この様な中、当社グループは、お客様・お取引先様・従業員の新型コロナウイルス感染防止の為、所管自治体等と連携を図りながら、従業員のマスク着用やレジ精算列の間隔を保つなどの対策を継続してまいりました。

営業面では、前年同四半期にみられた新型コロナ対策商品や巣ごもり需要といわれた商品群の動向が弱まる傾向となりましたが、WILD-1事業におけるキャンプやフィッシング関連商品などのアウトドア需要や専門店事業における業務スーパーのお買い得な食品需要については、引き続き高まりが見られ、販売も堅調に推移いたしました。

設備および経費面では、「WILD-1前橋みなみモール店(群馬県前橋市)」を2021年9月に新店出したほか、「ホームセンターカンセキ雀宮店(栃木県宇都宮市)」を2021年10月に全面改装したことにより、経費増加となりました。また、当第3四半期に発覚いたしました、当社元役員による資産の不正流用について、事実関係等の究明のために設置された第三者委員会の調査に係る費用および会計監査人による追加監査費用を計上しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は300億39百万円(前年同四半期比3.0%減)、営業利益は17億87百万円(前年同四半期比27.3%減)、経常利益は17億63百万円(前年同四半期比25.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億49百万円(前年同四半期比14.9%減)となり、減収減益となりました。

なお、新型コロナウイルスの影響が軽微であった前々年同期の売上高は268億68百万円でありましたので、前々年対比の当期売上高は11.8%増の水準となります(営業利益32.0%増、経常利益38.9%増、親会社株主に帰属する四半期純利益57.3%増)。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

[ホームセンター事業]

ホームセンター事業においては、新型コロナ感染予防対策のための衛生用品など、日用品や家庭用品の動きは落ち着きつつありますが、DIY関連商品や植物・園芸用品などの販売は引き続き堅調に推移いたしております。秋冬物商品につきましても、暖房用品は前年並みの滑り出しとなりましたが、加湿器や空気清浄機などの新型コロナ感染予防対策商品の販売は前年を大きく下回りました。

個店別の対策といたしましては、2021年10月に「ホームセンターカンセキ雀宮店(栃木県宇都宮市)」において、DIYおよび園芸商品の強化を目的とした全面改装を実施いたしました。改装後の業績は順調に推移しております。

これらの結果、ホームセンター事業の営業収益は、129億60百万円(前年同四半期比8.8%減)、セグメント利益は4億6百万円(前年同四半期比55.6%減)となりました。

[WILD-1事業]

WILD-1事業においては、前年同四半期ほどの大きな盛り上がりは見られなかったものの、アウトドア需要の拡大傾向は続いており、主力のキャンプ関連用品をはじめ、フィッシング関連用品なども着実に伸長しております。

キャンプ人口は引き続き増加傾向にあります。海外からの商品調達が生産国での新型コロナ拡大の影響で減産・入荷遅延したことなどにより、想定した成果には至りませんでした。

ネットショップのオンライン販売についても、前年同四半期実績を上回るペースが続いているものの、海外生産拠点におけるロックダウンや商流の混乱などから、人気プライベートブランド商品の入荷遅延が発生し、販売にも影響が出ました。

また群馬県3店舗目となる「WILD-1前橋みなみモール店(群馬県前橋市)」を2021年9月に新店いたしました。出店に係るイニシャルコストが発生しているものの、開店後の業績は、計画を大きく上回り、順調に推移しております。

これらの結果、WILD-1事業の営業収益は、103億70百万円(前年同四半期比1.7%増)、セグメント利益は14億87百万円(前年同四半期比9.2%減)となりました。

〔専門店事業〕

業務スーパー店舗では、地域のお祭りやイベントなどの業務需要回復が遅れているものの、一般のお客様による利用が継続的に増加しており、業務需要の減少を上回る業況が続いております。テレビなどのメディアに取り上げられることによって認知度が向上する中で、2021年9月から10月の2か月間にわたってチラシによる販売促進を強化したことにより、前年同四半期を上回る業績となりました。

オフハウス店舗では、新型コロナ前の売上高には至らないものの、商品買取キャンペーンを実施し、商品在庫の確保に努めることによって営業力強化を図りました。また、ネットモール（インターネットによる通信販売）に積極的に商品を出品することで売上高の確保に努めました。

これらの結果、専門店事業の営業収益は、70億3百万円（前年同四半期比2.2%増）、セグメント利益は5億67百万円（前年同四半期比7.3%増）となりました。

〔店舗開発事業〕

店舗開発事業では、アミューズメント施設において、新型コロナによる外出控えで減少した客数が徐々に増加に転じたことやプライズ（景品）ゲームの根強い人気などから業績の堅調な回復が見られました。

また、賃貸物件の物件数も安定してきており、計画通りの利益水準を確保しております。

これらの結果、店舗開発事業の営業収益は、2億66百万円（前年同四半期比13.3%増）、セグメント利益は1億12百万円（前年同四半期比33.2%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、304億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億15百万円の増加となりました。主な要因としては、現金及び預金の減少4億44百万円の減少要因に対し、売掛金の増加1億49百万円、商品の増加10億61百万円、有形固定資産の増加1億82百万円、投資その他の資産の増加5億50百万円等の増加要因によるものであります。

負債は、191億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億97百万円の増加となりました。主な要因としては、1年内返済予定の長期借入金の減少2億42百万円、未払法人税等の減少7億32百万円及び長期借入金の減少7億12百万円の減少要因に対して、支払手形及び買掛金の増加6億39百万円、短期借入金の増加13億10百万円の増加要因によるものであります。

純資産は、113億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億17百万円の増加となりました。主な要因としては、配当金の支払1億66百万円の減少要因に対し、当第3四半期連結累計期間において親会社株主に帰属する四半期純利益12億49百万円を計上したこと及びその他有価証券評価差額金の増加3億70百万円によるものであります。この結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は37.1%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルスの感染拡大について、現時点で当社への影響額等を見通すことは困難なことから、2021年4月9日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

今後の事業動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

※ 上記予想は、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,772,287	2,328,146
売掛金	708,567	858,099
商品	5,857,972	6,919,701
その他	292,660	401,730
貸倒引当金	△111	△141
流動資産合計	9,631,376	10,507,536
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,664,252	3,721,950
土地	11,067,882	11,103,422
その他(純額)	630,472	719,906
有形固定資産合計	15,362,607	15,545,279
無形固定資産		
投資その他の資産	550,472	559,987
敷金及び保証金	1,677,168	1,719,763
その他	1,621,905	2,129,942
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	3,299,074	3,849,706
固定資産合計	19,212,154	19,954,974
繰延資産	14,443	10,869
資産合計	28,857,974	30,473,380
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,076,716	3,716,437
電子記録債務	1,116,713	1,308,451
短期借入金	189,635	1,500,000
1年内返済予定の長期借入金	2,126,320	1,883,997
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払法人税等	851,077	119,011
賞与引当金	—	84,166
ポイント引当金	287,482	286,969
その他	1,177,310	782,422
流動負債合計	8,925,255	9,781,454
固定負債		
社債	900,000	800,000
長期借入金	7,813,683	7,101,204
役員退職慰労引当金	28,340	—
退職給付に係る負債	622,398	608,338
資産除去債務	197,829	210,022
長期預り敷金保証金	114,261	115,891
その他	352,462	535,196
固定負債合計	10,028,974	9,370,653
負債合計	18,954,229	19,152,108

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,926,000	1,926,000
資本剰余金	1,864,000	1,866,434
利益剰余金	5,850,775	6,933,406
自己株式	△730,216	△721,185
株主資本合計	8,910,559	10,004,654
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	918,402	1,288,895
退職給付に係る調整累計額	△2,198	△1,597
その他の包括利益累計額合計	916,204	1,287,297
新株予約権	76,980	29,319
純資産合計	9,903,744	11,321,272
負債純資産合計	28,857,974	30,473,380

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年11月30日)
売上高	30,957,294	30,039,102
売上原価	21,668,033	21,122,757
売上総利益	9,289,261	8,916,345
営業収入	552,800	580,948
営業総利益	9,842,062	9,497,293
販売費及び一般管理費	7,383,581	7,709,796
営業利益	2,458,480	1,787,497
営業外収益		
受取利息	432	366
受取配当金	10,891	12,397
受取保険金	3,036	5,728
補助金収入	18,347	36,935
その他	4,323	5,489
営業外収益合計	37,032	60,917
営業外費用		
支払利息	104,996	62,865
支払手数料	10,165	16,830
その他	8,499	5,241
営業外費用合計	123,660	84,937
経常利益	2,371,852	1,763,476
特別利益		
固定資産売却益	8,633	—
投資有価証券売却益	—	8,365
役員退職慰労引当金戻入額	—	28,340
新株予約権戻入益	—	48,146
特別利益合計	8,633	84,851
特別損失		
固定資産除売却損	2,836	6,807
投資有価証券売却損	—	147
投資有価証券評価損	8,271	0
賃貸借契約解約損	749	—
特別損失合計	11,858	6,954
税金等調整前四半期純利益	2,368,627	1,841,373
法人税、住民税及び事業税	902,420	636,595
法人税等調整額	△1,636	△44,476
法人税等合計	900,784	592,118
四半期純利益	1,467,842	1,249,254
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,467,842	1,249,254

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	1,467,842	1,249,254
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	470,583	370,492
退職給付に係る調整額	△278	600
その他の包括利益合計	470,305	371,093
四半期包括利益	1,938,147	1,620,348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,938,147	1,620,348

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2021年4月23日に3回目、2021年7月12日に4回目の緊急事態宣言が発令されたことにより、一部の店舗におきまして、やむを得ず休業または営業時間を短縮しておりますが、当社における影響は軽微なものとなりました。</p> <p>当社においては、第3四半期以降の業績を勘案し、今後の業績において新型コロナウイルス感染症の影響が軽微なものとなるという仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損損失等に関する会計上の見積りを行っております。</p> <p>なお、現時点で入手可能な情報に基づいて最善の見積を行っておりますが、今後の状況経過により影響が変化した場合には、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与える可能性があります。</p>

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセンタ ー	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	14,205,691	10,195,744	6,852,375	234,842	31,488,653	21,441	31,510,095	—	31,510,095
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	9,801	9,801	43,200	53,001	△53,001	—
計	14,205,691	10,195,744	6,852,375	244,643	31,498,454	64,641	31,563,096	△53,001	31,510,095
セグメント利益	914,801	1,638,054	528,850	84,760	3,166,467	17,891	3,184,358	△725,877	2,458,480

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△725,877千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△725,877千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセンタ ー	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	12,960,455	10,370,129	7,003,091	266,161	30,599,837	20,214	30,620,051	—	30,620,051
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	9,801	9,801	43,200	53,001	△53,001	—
計	12,960,455	10,370,129	7,003,091	275,962	30,609,638	63,414	30,673,052	△53,001	30,620,051
セグメント利益	406,222	1,487,608	567,352	112,881	2,574,064	16,384	2,590,448	△802,951	1,787,497

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△802,951千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△802,951千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。